駅・車内の案内放送を 4カ国語で提供

森本委員（新幹線協議会）

●新幹線重大インシデント発生から1年が経過。中央本部が主催する新幹線問題対策会議は、これまで6回開催され、新幹線重大インシデントの検証に向け、中央本部・各地本・本社総支部の協力、また分会組合員の貴重な意見を集約し、取り組みを進めてきた。

また、昨年の6月1日には、本社と支社機能を持つ新幹線鉄道事業本部が発足。部署によっては、本社機能があることによって、業務量が増えたという悲痛の声も聞いている。

新幹線全ての系統で慢性的に発生している、要員需給不足の解決を、中央本部に強く要請する。

●新幹線を安定的に運行させるためには、多くのパートナー会社や協力会社の社員が日夜を問わず、作業を行っている。これをサポートするためには、我社の強いリーダーシップが必要だと思われる。

これからの鉄道事業にとっては、人材の確保が重要な課題である。対処をお願いする。

●インバウンドの需要は年々増えており、訪日外国人旅行者は、2020年には4000万人が目標とされている。そんな中、国土交通省が、「異常時における訪日外国人旅客への情報提供（新幹線）に係わる対応指針」を策定した。内容としては、駅・車内における情報提供を4カ国語にて行うというものである。

ここ数年、訪日外国人が増え続けている中で「さくら号」の乗車率が増加している。車掌が、お客様対応に苦慮している。「さくら号」への特改乗務員を増やし、ジャパンレールパスの列車利用制限緩和による分散乗車など、スムーズな対応が出来るように、対策をお願いする。

SLの技術継承・動態保存に黄信号

西岡委員（京都地本）

●「JR西日本安全考動計画2022」が策定されたが、死亡労災が発生した。亡くなられた方や労災に合われた方は、協力会社なので、会社として、協力会社にどう関わって、どうルールの徹底をさせていくのか、議論する場が必要だと考える。

●SLについて、本当に困っている。本当にヒトがいないのである。来られる方は、シニアの方か、シニアを目前にされた方で、若手を送っていただかないと、技術継承も、会社が望んでいる動態保存もできない。

本部としても本社に強く申し入れをしていただきたい。

●JR西労組が勝ち取ってきた制度や、職場間での勤務調整で、育児をしながら働くことができるようになり、復職をしている組合員も増えてきている。組合員同士の結婚が増えると、新たに働きながら育児のできる制度の構築が必要となってくる。本部として、会社から聞いていることがあれば、お聞かせ願いたい。

安全にイデオロギーはない

大川委員（米子地本）

●梅小路京都西駅の新駅開業、奈良線の複線化、CS・ES工事、ホーム柵の設置など、今後も業務が多くなると思われる。

そんな中、やりがい・働きがいが感じられないといった声を聞く。このままでは大きな事故につながるのではないかと危惧している。

●統一地方選に、梶原英樹氏が京都府議会選挙山科選挙区から立候補する。山科選挙区にお知り合いがいれば、最終最後までのお声かけをお願いする。

●春闘勝利の期待を込めて、「第22回京都駅ビル大階段駆け上がり大会」の成功に向けて全力で取り組む。

●米子地本として「安全の集い」を開催し、中央本部からは城副委員長、福本業務部長、山中工務部会長に参加いただき、事故後に入社した組合員を中心に94名が参加した。

「安全の集い」終了後には、根雨駅にある安全碑において、国労と初めて合同献花式を行った。13年前の触車事故で殉職されたのは、JR西労組の組合員が2名、国労の組合員が1名であった。事故以降、それぞれの組合で献花を行っていたが、「安全にイデオロギーはない」との思いで、労働組合の壁を越え、合同献花式を行うこととした。改めて「命の尊さ」を心に刻み、悲惨な事故を、決して起こさない決意を確認したところである。

●JR発足時と比べれば、事業規模・収益等は大きく拡大しているなか、社員数は大幅に減少している。米子地本の超勤実績は、対前年比84％、社員一人あたり46分削減となっている。社員一人ひとりの生産性は大きく向上している。

現場で働く組合員の、技術継承や経営基盤の確立に資する施策の推進・コスト削減に、全力で取り組み、努力した結果である。

●豪雨災害で、伯備線と木次線が、1ヶ月運行できず、全組合員による復旧作業、代行輸送の計画・手配・案内、山陰本線による貨物輸送の対応、間接組合員・現場組合員、またグループも含め、酷暑のなか、社会的使命感をもって、早期復旧を果たした。

この労苦に対する公正配分がなければ、現場で働く我々を、会社は軽視しているとしか思えない。

●地方本部としても、組織内議員を通じて、政治セミナーの開催や、政治に特化したユニオンスクールの開催、支部での政治勉強会を通じ、組合員の政治への関心を高めるべく、運動を展開している。

●統一地方選では、組織内議員「福間ゆたか」氏の7期目の当選に向けて奮闘している。

統一地方選挙に向け 総力を結集して取り組む

池上委員（広島地本）

●昨年の「西日本豪雨災害」において、絶大なるご支援に対し、深く御礼申し上げる。

●重大労災の発生について、「なぜ守れないのか」ではなく。「守れない理由は何か」を追求しないと本当の原因は見えてこない。

●若い世代に「『労働組合』という組織がなぜ必要なのか？」ということについて、もっと丁寧に伝えていく必要がある。

●納得感のあるエリア手当のあり方について、議論を要請する。

●地方における駅業務は、要員不足を解消出来ないと、大変なことになる。「遠隔MV」を導入しても、締切や旬報や整理業務は変わらず残り、除草・カンテラ等の線路内作業が本来やるべき改札・出札の駅業務を圧迫している。駅の業務を精査し、割り切ってなくすことも必要である。

●運輸・車両関係触車事故防止準則の改正等においても、工務触防との保安度の格差は勿論だが、運輸では「停留場は駅間」というスタンスがあることから、停留場での作業の考え方に、どのように対応していくのか、保守用車走行時の作業、工務側との打ち合わせ方等、課題は山積みである。

●中国新聞に、広島支社管内の宇部線、小野田線をBRT化という記事が掲載された。記事は、あたかもJR西日本が席についたかの内容だが、「BRT・LRT」を含めた鉄道輸送のあり方について、見解があれば教えていただきたい。

●広島地本は、寝ても覚めても「選挙」である。下関市議選の山下隆夫氏が5期目の当選。4月の統一地方選の柿本忠則氏と酒本哲也氏の当選に向け、総力を結集し、取り組んでいく所存である。この「政治・選挙活動」は、組織を強くする一つのツールにもなると考える。一人の為に皆が一丸となって目標を達成する過程を大切にしながら、取り組んでいきたい。

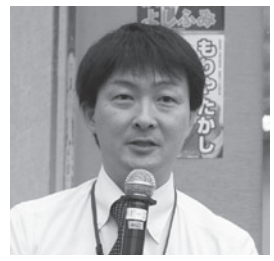
中間答弁

安全は「確認ですが」を合い言葉に

福本業務部長

◆北陸新幹線について、本部としても決して軽んじているわけではない。車両の標準的所要員のなかでも議論してきた。本社には、北陸新幹線の敦賀延伸に向けたスケジュールを提示するよう再三求めている。また情報が入れば、すぐにお知らせする。

◆安全について、本部としても検証活動をすすめていきたい。労組のチェック機能（PDCA）について具体的に何をやるのかと質問があったが、これまでどおり機関会議を徹底していくことや、賃金実態調査等を活用しながら安全に対する声を吸い上げたうえで、労使安全会議の場で会社幹部にその声を伝えるなど取り組みを進めたい。その他の具体的な方法については本部でも議論をしていく。



◆多くの皆様から安全についてのご意見をいただいた。JR西労組として「確認ですが」という言葉を冒頭に付けることについて取り組んでいる。既に、JR西日本の社内誌2月号にもこの運動に取り組んでいくことが掲載され、我々が提言したものが取り組まれ、JR西日本グループ全体に周知される。まず現場から「確認ですが」を合言葉としてまず確認する文化を作っていきたい。

◆36協定について、まさに議論しているところ。例年より早いタイミングでお知らせできるよう取り組んでいく。4月1日の法改正に対応できるようにしていかなければならない。また、特別条項についてもより具体的に記すよう指針がでたので、それをふまえて会社と議論をしている。

◆契約社員の縮小・廃止について、2月6日に1回目の交渉を終え、2月12日に2回目の交渉を行う。70項目の要求を集約し、申し入れを提出した。今後の駅体制のイメージがわかないことを会社にも伝え、会社もビジュアルにより一定示すようになった。具体的な駅体制のイメージができるだけ伝わるよう、努力してまいりたい。また、会社に対しては、新しい駅体制について社会に対しても発信すべきでは、と言っている。お客様にも一定ご理解をいただく必要があると考えており、会社も現在勉強しているようだ。

◆天皇陛下の即位に伴う休日ということで、いわゆる祝日法にかかわる内容について、2月1日付で会社に対して申入れを出している。今回の休日は「国民がこぞって祝おう」という主旨である。今のままでは、就業規則を変えないと休みにもならず手当も出ない。我々のスタンスとしては、まずは休みを認めようということ、そして手当を求めるということで申入れを出している。春闘とは別に議論をしていきたい。

政治にもっと興味を

川原政治・福祉対策部長

◆山下隆夫さんの出陣式には、150名を超える後援会の方々が参加。選挙期間中も後援会の方々に頑張っていただき、成果を勝ち取ったと考える。後援会の後押しの大切さを痛感した。

◆1月の青年女性委員会のユニオンスクールで、公職選挙法の取り扱いについて、荻山委員長から、1時間講義をしていただいた。今後、基礎コースやオルガナイザーコース等、政治を講義に入れながら、選挙に関心を持っていただくように、取り組んでいきたい。

◆難しいのが、国民民主党と立憲民主党の問題。国民と立憲の政策を両方見ることによって、両者の政策課題が見えてくると考えると、両政党の違いに興味を持っていただくいい機会だと考える。統一地方選のパンフレットを各地本にお配りをするので、分会・支部で共有していただきたい。